

# 家畜衛生広報



ながの

平成 22 年 (2010 年) 3 月 9 日

長野家畜保健衛生所  
北信家畜畜産物衛生指導協会  
〒380-0944 長野市安茂里米村1993  
Tel 026-226-0923 Facs.026-227-2665  
E-mail: nagakachiku@pref.nagano.jp

養豚農家の皆さんへ

## 最近、各地で豚丹毒の発生が目立っています。

- ・平成21年1月から12月に全国で2,258頭の豚丹毒が発生し、そのうち長野県内発生は86頭でした。県内の発生は、と畜場で発見された慢性型の関節炎型が大半ですが、蕁麻疹型の発生も報告されています。
- ・豚丹毒菌は環境に常在する菌です。知らぬ間に、農場内の豚をはじめ土壤などの環境でも豚丹毒菌汚染が進行している場合があります、注意が必要です。

### 豚丹毒とは

豚、いのししの届出伝染病。ヒトやほ乳類、鳥類にも感染します。

### 原因

豚丹毒菌

(*Erysipelothrix rhusiopathiae*)

- ・本菌は環境に広く分布し、土壤、汚水中に存在し、またほ乳類や鳥類等にも分布します。
- ・感染豚の尿や糞便中に大量の菌が排泄され、汚染源となり、経口感染や創傷感染します。



蕁麻疹型の発症豚 (畜産図鑑第1巻、1985、全国農業共済協会)

### 症状

- ・急性型である敗血症型および蕁麻疹型、慢性型である関節炎型および心内膜炎型に分けられます。
- 【敗血症型】40度以上の高熱が突発し、1~2日の経過で急死します。
- 【蕁麻疹型】菱形疹と呼ばれる特徴的な皮膚病変を示します。
- 【関節炎型】四肢の疼痛やは行が認められます。
- 【心内膜炎型】臨床的に異常を認めることはほとんどありません。
- ・ヒトにおける豚丹毒菌による感染症は類丹毒と呼ばれ、症状は患部の腫脹であり、ときに発熱、疼痛を伴い、リンパ節炎を引き起こします。

### 診断

臨床所見では皮膚の菱形疹が有力な指標となりますが、確定診断は豚丹毒菌の分離培養で行います。

### 対策

ワクチンが有効です。現在、生ワクチンおよび不活化ワクチンが市販されています。急性型は治療も有効であり、ペニシリン注射等で重症例も回復します。慢性型の治療効果は明らかではありません。高温多湿などのストレスが発生要因となるので、輸送や飼育環境までの改善につとめる必要があります。

# 最近、牛白血病の発生が全国的に増加しています。

- ・平成21年1月から12月に全国で1,368頭の牛白血病が発生し、そのうち長野県内発生は6頭でした。
- ・近年、牛白血病の発生数やと畜場での牛白血病摘発数が全国的に増加していることから、感染防止対策の徹底が必要です。

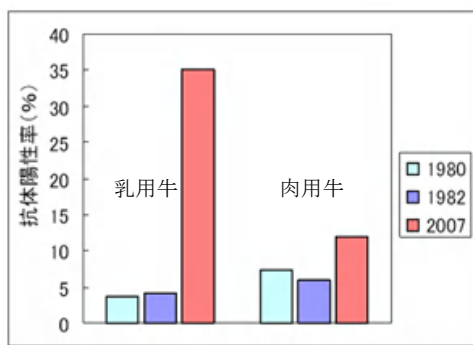
## 牛白血病とは

家畜伝染病予防法に基づく届出伝染病。地方病型（成牛型）と散発型（子牛型、胸腺型、皮膚型）に分類されますが、経済的損失が大きく問題となるのは主に地方病型白血病です。

【地方病型牛白血病】牛白血病ウイルス（BLV）感染によって起こります。

- ・BLVに感染した牛の多くは無症状です。
- ・BLVに感染した牛の約30%は、血液中のリンパ球が増加した状態である持続性リンパ球増多症を示します。
- ・数ヶ月～数年の期間を経て、BLVに感染した牛の約1%以下が発症します。
- ・発症牛では、リンパ節の腫大、頸部の膨張、まれに眼球突出がみられ、予後は不良です。

## 近年の感染状況



参照：日本獣医師会雑誌 Vol62.No.7.2009

- ・近年、牛白血病の発生数やと畜場での牛白血病摘発数は全国的に増加しています。
- ・2007年に実施された全国的なBLV抗体調査では、平均抗体陽性率は28%（乳用牛35%、肉用牛12%）であり、1982年と比較して高い抗体陽性率であることが明らかになりました。
- ・BLVの感染が成立してBLV抗体ができて、ウイルスは排除されずに共存するため、抗体の検出はすなわち感染が継続していることを意味します。

## 感染要因とその対策

- ・牛白血病は主に水平感染によって広がると考えられています。
- ・水平感染には人為的感染、吸血昆虫による感染、同居感染、初乳感染などがあります。

### 人為的感染の防止対策

・直検手袋や注射器など器具の連続使用や出血を伴う作業による感染では、約1マイ加崙（1崙の百万分の一）の血液で感染が成立するとされています。

・対策としては、直検手袋・注射針などを使い回すことを禁止し、出血を伴う作業の際の洗浄・消毒を徹底することが必要です。

| 血液を介したBLV伝播の危険性（小沼ら、家畜診療,2000年） |  |
|---------------------------------|--|
| 感染の危険性                          | 処置                                     |
| 高                               | 輸血<br>汚染注射器具                           |
| 中                               | 直検（妊娠鑑定）を同一手袋で実施<br>外科処置（除角など）を同一器具で実施 |
| 低                               | イヤータグ<br>吸血昆虫による伝播                     |
| ほとんどない                          | 人工授精<br>受精卵移植                          |

### 乳汁感染の防止対策

・感染牛の初乳中にはBLV感染細胞とBLV抗体の両方が存在するため感染率は低いとされていますが、初乳をプールした場合の感染率は高くなると考えられています。

・対策としては、陽性牛の初乳を処理（60℃30分の加温処理）して与えることが有効です。